

子どもたちと先生にもっと「働くとは何か」の話を

— 経済同友会からの出張授業で考える —

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：林さんは経済同友会から派遣され、中学校や高校へのお出張授業に行っているそうですね。

A：(1)はい。東京の公益社団法人経済同友会は、個人の資格で入会できる経済団体(他に経団連や日本商工会議所があります)の一つで、様々なテーマの委員会があり、熱心な調査・研究・議論に基づき、政府や企業経営者、市民社会への政策提言や報告を行っております。

(2)国の教育政策についても、教育改革委員会で提言を出しておりますが、2001年4月に発表した提言、「学校と企業の一層の相互交流を目指して～企業経営者による現場教育への積極的な参画～」の実践活動として「学校と企業・経営者の交流活動」委員会をスタート。現在では100名以上の経営者が登録して、年間100件以上の出張授業や講演活動を展開し、2017年で17年目に入ります。

(3)私も経済同友会の会員の一人として、交流活動に参加する登録をしております。学校や教育委員会から講師派遣の要請が経済同友会の事務局にあると、その都度事務局では出張授業に行ってもよいと登録をしている会員にメールで連絡し、その日に行ける希望者を募り、その中からバランスよく講師を選定し、学校と講師に通知。あとは、当事者同志が連絡を取り合い、出張授業を行っております。交通費を含め、謝礼は一切なし。授業終了後しばらくすると、学校から講師と事務局に受講者全員からの感想文が届きます。

(4)栃木県足利市立富田中学校での出張授業に行かせて頂いた時には、授業終了後に、お礼にとクラス全員で私のために合唱をして頂き感激いたしました。

(5)学校によっては、午前中最後の授業後に生徒と一緒に給食を御馳走になることもあります。校長先生や学年担当の先生、生徒との意見交換会がある学校もあります。

Q：経済同友会は全国各地にあるようですが、この活動は東京の経済同友会だけですか。

A：(1)東京の他に私が所属している公益社団法人栃木県経済同友会と群馬経済同友会でも同様の活動を行っています。富山経済同友会、新潟経済同友会、名古屋の中部経済同友会も同様の活動をしています。

(2)栃木・群馬・富山・新潟・中部の5つの経済同友会では、担当する教育関連委員会が出張授業をどうしたらうまくできるかをテーマに年1回、持ち回りで研究会を開いているほど熱心です。

(3)この他の全国各地の経済同友会でも出張授業が数多く行われております。経済同友会以外の経済団体や様々な団体でも出張授業が行われています。

Q：経済同友会に要請される出張授業のテーマは何ですか。

- A：(1)「働くとは何か」「働く意義とは何か」「働く喜びとは何か」「社会が求める能力とは何か」「中学生・高校生時代に身に付けておいたほうがよいことは何か」「中学校や高校で学ぶ意味とは何か」など様々です。
- (2)学校の先生や教育委員会からは、「グローバル社会で求められる能力とは」「学校教育への期待とは」「教員として身に付けておくべき能力とは」など様々です。
- (3)私も、10年目研修会、校長研修会、副校長研修会、教育委員研修会、学校へのクレーム対応研修会などで様々なテーマでお話したことがあります。

Q：出張授業ではどのような形でお話をするのですか。

- A：(1)全学年の生徒全員を対象とすることもあります。
- (2)1学年の生徒全員を対象とすることもあります。
- (3)1クラスごとの場合もあれば、1クラスを半分に分けて行う場合もあります。
- (4)何人かの講師が出張授業に行く場合には、クラスに関係なく受講者が講師を選ぶ場合もあります。
- (5)受講者が多ければ講演会方式で、少なければゼミ方式で行います。
- (6)場所は受講者の数で決まるようです。人数が多ければ体育館や講堂で、少なければ教室やゼミ室などで行います。
- (7)保護者対象の場合もあります。

Q：出張授業は生徒や先生方、保護者の皆様のお役に立っていますか。

- A：(1)一度、経済同友会のメンバーが出張授業に行った学校の大半から、毎年繰り返し要請があるようですので、お役に立っているのではないかと思います。
- (2)生徒や先生方からの感想文を読ませて頂いても、お役に立っている方が多いのではないかと思います。
- (3)経済同友会のメンバーは世界や日本、各地の経済界の第一線で現役で活躍している方々ばかりですので、仕事を通して世界や日本を見て、子どもたちや先生方に期待することを自分のことばで率直に語ります。
- (4)世界や日本、地域の将来を担う中学生・高校生が自らの潜在能力に自らの力で気づき、自らの力で自分の潜在能力を大いに伸ばしてもらいたい、自己責任、自助努力で自分の未来は自らの力で切り開いてもらいたい。
- (5)そのために、自分の仕事の上での経験を少しでも伝えたい。仕事をする上で、教科外の教育活動も含め、今、学校で学んでいることがいかに役に立つかをわかりやすく伝えたい。
- (6)先生方にも、現代のグローバル化社会はどのような社会であるかをお伝えし、いろいろな角度から社会について勉強しながら、生徒の指導を行って頂きたい。
- (7)このような思いで、多くの出張授業は行われていると思います。

Q：学習塾・予備校・私立学校の先生方にお伝えしたいことは何ですか。

A：(1)2017年度は是非、先生方の学習塾や予備校、私立学校でもお知り合いの経営者や様々なジャンル(分野)で御活躍中のプロフェッショナルと呼ばれる方々をお招きして、様々な形で「働くとは何か」「働くことの意味を考えよう」などのテーマで出張授業を計画なさることを御提案いたします。

(2)学校法人をお持ちのところであれば、経済同友会はじめ各種団体からの出張授業は可能な場合が多いと思われますので、是非、事務局と御相談頂ければ幸いです。

(3)学習塾であれば、保護者やOB、商工会議所や商工会に御相談して、2017年度は年1回でも「仕事とは何か」についての出張授業を実現して頂くことを御提案いたします。

(4)人間にとって最も不幸なことの一つは、せっかく学校や学習塾・予備校などで勉強していても、勉強することの価値や意味がわからないことです。何のために受験勉強をするのか、その目的がわからない。合格すること以外に、受験勉強の目的がない。合格が目的になってしまうので、合格した後はせっかく勉強したことの大半を忘れてしまい、遊び呆ける。教える側の先生も、受験勉強の目的はとにかく合格としか口にしない先生が多い。

(5)このような状況を脱却するため、経済同友会はじめ様々な団体からの出張授業の御活用を提案させていただきます。

(6)どうしても出張授業の講師が見つからない場合は、私であれば何処へでも行かせて頂きますので御連絡ください。(0284-72-5945 開倫塾 塾長室 高尾宛)

Q：最後に一言どうぞ。

A：今月も、お読みになれば必ずお役に立つ本を何冊か御紹介いたします。

(1)1冊目は、ノーベル経済学賞のジョセフ・E.スティグリッツ著「ユーロから始まる世界経済の大崩壊—格差と混乱を生み出す通貨システムの破綻とその衝撃—」徳間書店2016年9月20日刊です。イギリスのEU離脱に続き、2017年のフランスとドイツの総選挙の結果次第で反EU、反ユーロ政策をとる政権が誕生すれば、その経済的衝撃は2008年のリーマンショック以上と予想されていますので、その時になってうろたえないためにも、スティグリッツ先生の本著で今から理論武装を行っておく必要があります。

(2)2冊目は、ピューリッツァー賞受賞の「フラット化する世界」の著者、Thomas L Friedman (フリードマン)著「Thank You For Being Late」Penguin Books 2016年刊です。まだ翻訳は出ておりませんが、2007年以降のAIや最先端情報技術にどのように向き合えばよいかをじっくり考えるのに役立ちます。

(3)3、4冊目は、明治大学教授の齋藤孝先生著「新聞力—できる人はこう読んでいる」ちくま新書、筑摩書房2016年10月10日刊と、同著「新しい学力」岩波新書、岩波書店2016年11月18日刊の2冊です。2020年予定の学習指導要領大改訂を前に、今なすべきことは何かを考えるのに最適です。学習塾・予備校・私立学校の先生は、この齋藤孝先生と池上彰先生の本はすべて読んだほうがよいような気が最近してきました。

(4)5冊目は、日本総合研究所の山田久先生著「失業なき雇用流動化—成長への新たな労働市場改革—」慶應義塾大学出版会2016年5月30日刊です。超人手不足の解消策をお考えくださ

い。

(5)最後に古典を2冊御紹介します。

- ① 1冊目は、現代語訳桑畑正樹著「西郷南州遺訓」いつか読んでみたかった日本の名著シリーズ③、致知出版社 2014年10月15日刊です。1939年刊の岩波文庫と併読し、巨人西郷隆盛の精髓の理解を。ちなみにこの致知出版の「日本の名著シリーズ」は、難解な古典が全文スラスラ読め、有難い限りです。
- ② 2冊目は、ヨーゼフ・シュンペーター著「資本主義、社会主義、民主主義Ⅰ、Ⅱ」日経BPクラシックス、日経BPマーケティング 2016年7月19日刊です。企業家精神、イノベーション、創造的破壊を唱えたシュンペーター主著の一つ。ポピュリズム保護主義、ブロック化経済が進めば、全体主義への道を辿ることは歴史の必然。ではどうしたらよいかを考える時に、シュンペーターの本著はお役に立つと確信します。ちなみに、この日経BPクラシックスの翻訳はとても読みやすく、スラスラ読めます。

— 2017年1月10日(火)林明夫記—